



ヴォルティスコンディショニングプログラム（SIB）

徳島ヴォルティスはホームタウンへの貢献活動として年間400回以上の活動を継続してきていたが、その殆どがボランティアでの取り組みでもあり、活動の拡大にも限界がある為、次のステップとして事業化による活動の広がりや雇用の拡大を模索していた時、SIB事業の情報を知り、取り組みを開始した。具現化に向けて、自治体の協力が必須であるが成果連動型の取り組み、SIBの考え方に美馬市長からの賛同を得ることができ、また市長のリーダーシップによる美馬市としての協力体制があり、案件組成まで進むことができた。また、SIBのポイントであるKPIの設定については、経済産業省や外部シンクタンクの協力を得て設定、合意することができた。

活動場所 : 地域交流センター ミライズ

取組テーマ : 健康／SIB

協働者 : 企業／住民／行政

協働者名 : 美馬市、大塚製薬株式会社、株式会社R-body project、株式会社タニタヘルスリンク、明治安田生命保険相互会社、株式会社阿波銀行、徳島県信用保証協会、筑波大学名誉教授・河野一郎先生、株式会社日本総合研究所

活動で工夫した点

個々の目標ではなく、共通の課題解決に向け、自治体をはじめ、様々な企業との連携により実施している。運動プログラムはトップアスリートも実践するトレーニングを体系化したR-body project社のプログラム、栄養面では大塚製薬のボディメンテゼリー、日々の活動の見える化（ICT）はタニタヘルスリンク社等、関連する企業との連携が大きい。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

そもそもSIBとは何か？SIBや国の動き、制度等への理解と人材の確保、またクラブ内での理解・了解（これは実施するスタッフも含めて）なかなか理解を得られなかった。まずは美馬市にシンクタンクよりKPIの設定等の指導を行ってもらい、美馬市の理解と協力と共に課題解決するんだという強い想いで実施することができた。

クラブや地域の活動後の変化

Jリーグクラブによる全国初のヘルスケアSIBとして、経済産業省をはじめ、各社マスコミに取り上げて頂き、クラブ内に事業として成り立っていけるという意識が芽生えた。また、参加者の方々が2ヶ月で卒業後、今度はOB・OGとして、この方々が友人・家族に対して、健康情報を発信してもらえよう、月に1回OB・OG会を実施していく。参加者募集は市の広報、知人・友人の勧めでスムーズに進んでいる。



協働者の声

美馬市藤田市長のお話：「市民から叱られることはあっても褒められることはまず無いが、このヴォルティスコンディショニングプログラムの取組みは、市民の皆さんから大絶賛されているんですよ」

参加者の声

「膝が悪く、以前、病院で人工関節の手術を勧められたがやらなかった。その後、医師の指導もあって膝への負担が少ない水中での歩行などの運動を続けてきたが、痛みはとれなかった。そんな時にこのプログラムに出会って、毎日、夕食後に12種目を35分かけて続けてきたら先週ぐらいから、痛みが無くなっている。このプログラムに出会って本当に良かった。膝が痛くて旅行にも行けなかったけど、お父さんと旅行に行きたい。」

活動の「ここぞ！」というPRポイント

Jリーグクラブによる全国初のヘルスケアSIB。また、投げっぱなしではなく、成果に応じて支払う、成果連動型であること。自治体との強い連携が生まれる。

補足

みなさんの笑顔をいただける喜び、みなさんのお声を直に聴ける楽しさ、そして、みなさんの役に立つことの嬉しさを実感しています。